

小坪小だより

5月号

横浜市立小坪小学校 校長 高田 桂太郎

横浜市港南区港南台4-11-1

電話832-0617

今は未来につながっている

校長 高田 桂太郎

学校では、ツツジの花が美しく咲き始め、新緑が目まぶしい季節となりました。例年通りなら、子どもたちは、新しい友達もでき、クラスにも慣れ、学習活動の中でそれぞれに自分らしさを発揮し始めているところです。しかし、臨時休校の延長という中、子どもたちは、いつもとは違う環境の中で今、それぞれ自分ができることを考え、頑張っていることと思います。保護者の皆様におかれましても子ども達のために、きめ細やかな健康管理など様々なことに配慮をしてくださり、本当に感謝しております。

この状況の中で、子どもたちは、我慢をしなくてはならないことが、たくさんあると思います。ずっと足踏みを続けて、前に進んでいないような気持ちで、不安を感じているかもしれません。我々職員も子どもたちと一緒に、気持ちも新たに令和2年度をスタートする準備をしていたので、残念でなりません。しかし今は、子ども達一人ひとりの健康と命の安全が最優先です。保護者の皆様はお子様、今頑張っていることが、未来の自分の力に確実に繋がっていると、ぜひ伝えてあげてください。そして保護者の皆様が、お子様のことを本当に大切に思っていることを伝えてあげてください。学校でも、担任は勿論、職員みんなが子どもたちのことを思っています。子ども達が、みんなに見守られていることを感じ、安心してもらえたら嬉しいです。

学校では、子ども達がいつでも戻って来られるように、また学習活動をしっかり進められるように、行事計画や学習の進め方などを練り直しました。すでに、4,5,6年生の宿泊学習の日程の変更についてはお知らせしましたが、今後も情勢によって変更や中止になるものが出てくるかと思えます。例年とは異なり、戸惑うこともあると思いますが、子どもたちの安心・安全と学習機会の確保を第一に進めてまいります。

保護者、地域の皆様にもご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

☆「こどもの読書週間」

4月23日を、「子ども読書の日」とし、この日から5月12日までが「こどもの読書週間」となっています。今年のテーマは「出会えたね。とびっきりの1冊に」です。読書を進めるにあたって…

- ①幼児には、保護者が本を読んで聞かせてあげる。
- ②子ども達の身近にいつも本を置くことを考え、毎日たとえ短い時間でも本を読むことをすすめ、本を読むのを聞いてあげる。
- ③保護者みずからが、読書をする姿を子どもたちの眼に触れさせる。

この3点が重要で、これらを通して本を話題とした会話が、親子で弾んでいくことが大切なのだそうです。

私が、大好きな児童書ベスト3は、「いやいやえん」「おしいれのぼうけん」「かたあしだちのエルフ」です。この本は、今も時々読むことがあるのですが、その度に、当時とてもわくわくしたことと、読み聞かせをしてくれた母を思い出します。

臨時休校で、家にいる時間がいつもより長くなるこのときに、本を通して親子で心豊かな時間を過ごしてみたいでしょうか。